

日中活動支援部会全国大会 関東地区埼玉大会

令和6年度

大会 テーマ

「日中活動事業所において、
本人の意思を中心に置いた支援の姿とは」

～自分が望む活動と社会参加、
そして「生まれて良かった」と思えるリアルな豊かさ～

令和6年4月に施行された障害福祉サービス等報酬改定において、意思決定支援の推進が盛り込まれ、「障害福祉サービス等の提供に当たっての意思決定支援ガイドライン」を踏まえ、障害福祉サービス事業等の指定基準に規定として追加することが示されました。そこには、「事業者は、利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、利用者の意思決定の支援に配慮するよう努めなければならない」という方針が打ち出されています。

障害のある人が保護の対象ではなく社会を構成する一員として、主体的に自己選択と自己決定に基づいた、社会の様々な分野での参加や参画が求められています。そして私たちはその実現に向けて絶え間ない取り組みを行ってきました。しかし、その一方で障害のある人の活動を制限し、社会への参加を制約している諸要因があるのも事実です。このことは多様性に溢れ、個性を尊重し合うノーマライゼーションの理念の実現にとって大きな課題と言えます。そこでこの課題について改めて正面に立ち、認識を深めるとともに、障害のある人の想いや願いを叶えるために、私たちに何ができるのかを皆さんとの議論をとおして思いの共有と実践に向けた気づきや学びを得る機会とするため、本大会を実施します。

日程 令和7年1月29日（水）～30日（木）

方法 対面集合型

場所 ソニックシティ、パレスホテル大宮

〒330-8669 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-7-5

会員施設 14,300円（本体13,000円+税1,300円）

一般・その他 18,700円（本体17,000円+税1,700円）

懇親会 10,450円（本体 9,500円+税 950円）

定員 大会：600名 懇親会：300名

申込締切 令和6年12月6日（金）

申込サイト <http://www.mwt-mice.com/events/nicchu-katsudou-2024kanto>

主催 公益財団法人日本知的障害者福祉協会 日中活動支援部会

関東地区知的障害者福祉協会

埼玉県発達障害福祉協会

後援 （予定）

埼玉県／さいたま市／社会福祉法人埼玉県社会福祉協議会／きょうされん埼玉支部／

一般社団法人埼玉県セルフセンター協議会／公益社団法人埼玉県手をつなぐ育成会

参加申し込み 名鉄観光サービス株式会社 さいたま支店

担当：本図・須永・福島

Tel 048-641-5388 Fax 048-641-5287



1日目（1月29日）全体会 ソニックシティ大ホール

12:00	受付
13:00	開会式
13:30	行政説明「令和6年度に施行された報酬改定の背景について」 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課 課長補佐 服部 剛 氏
14:10	シンポジウム「報酬改定が施行されてからの生活介護事業はどう変わったか？ そしてこれからの生活介護の事業はどうあるべきか？」 進行：日本知的障害者福祉協会政策委員会副委員長 社会福祉法人彩明会 理事長 白石 孝之 氏 助言者：厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課 課長補佐 服部 剛 氏 発題者：日本知的障害者福祉協会日中活動支援部会 部会長 森下 浩明 氏 日本知的障害者福祉協会障害者支援施設部会 部会長 榎本 博文 氏
15:40	基調講演「一人ひとりの意思に従った社会参加のあるべき姿とは」 講師：中部学院大学人間福祉学科非常勤講師 田口 道治 氏 進行：日本知的障害者福祉協会日中活動支援部会 部会長 森下 浩明 氏
17:00	終了
18:00	懇親会 パレスホテル大宮（～20:00）

2日目（1月30日）分科会 ソニックシティ小ホール他

＝はじめに＝

障害者権利条約の第19条（自立した生活及び地域社会への包容）では、締結国は、全ての障害者が他の者と平等の選択の機会をもって地域社会で生活する平等の権利を有することを認め、障害者が、この権利を完全に享受し、地域社会に完全に包容され、参加することを容易にするための効果的かつ適当な措置をとることを定めています。

このことを、単なる目標とはせず、「障害の重い人・支援が困難な人」も含めて、私たちが出会う利用者一人ひとりが、人生の主体者として毎日が送られるよう、私たちはそのことを理解し、その理解を基本に置いた合理的配慮を考え、どのような支援をしていくかをそれぞれの分科会を通して考えていきましょう。

9:00	受付
9:30	分科会①「活動を支える」 ～ご本人が望み、役割を持つ。本人中心の日中活動とは～ 分科会②「暮らしを支える」 ～『この街で暮らし続けたい』、その思いの実現に向けて～ 分科会③「想いを支える」 ～映画「帆花」を通して考える「想いを創る・図る・支える」こと～
12:15	終了

※諸事情によりプログラム、登壇者を変更する場合があります。

第1分科会 市民ホール

「活動を支える」 ～ご本人が望み、役割を持つ。本人中心の日中活動とは～

重度障害者が利用している日中活動支援事業所（通所事業所）は、「社会参加」を目的に様々な活動が行われています。その事業所内外での活動や社会化を目指した活動は、利用者の自己決定・自己選択、利用者の意見や強みを生かすことになります。

実践報告とグループワークを通して、各活動の特徴や独自の発想と工夫等について情報交換を行います。そして日中活動支援事業所の役割とともに、利用者一人ひとりが地域社会の中に存在していく姿や地域住民との相互関係についても注目して行きます。本分科会を通し、改めてコロナ禍後の現場実践を見つめてみましょう。

内 容

実践報告① 「本人が自分で決定できることを目指して、日中活動事業所が取り組みを行っていくこと」

発表者：社会福祉法人愛泉会 デイサポートちとせんぼ

管理者 中村 民子 氏（山形県）

実践報告② 「対策を練って挑戦した初めての美容院」

発表者：社会福祉法人明徳会チャレンジめいとくの里 ゆめくらしワークス事業部

サービス管理責任者 福田 悟 氏（熊本県）

グループワーク 「利用者の意思に基づいた活動の実践と社会参加を考える」

第2分科会 国際会議室

「暮らしを支える」 ～『この街で暮らし続けたい』、その思いの実現に向けて～

地域社会では「障害の重度化」「本人と家族の高齢化」など、「暮らし」を取り巻く課題が顕著になっています。それらは日中活動支援事業所の取り組みや活動だけでは解決しない課題です。そのために、多職種他分野連携や地域生活支援拠点事業などの取り組みが各地域で実践されつつあります。

本人の希望により「住み慣れた地域で暮らし続けたい」との思いの実現に向けて、改めて日中活動支援事業所がどのような役割や働きをするべきか、様々な関係者との「つながり」から見えてくる支援の姿について学び合ひましょう。

内 容

課題提起 「暮らし全体を支え、夢や希望を実現するための繋がりづくり」

～日中活動事業所に求められる住まいの場や地域・関係機関との連携～

発題者：日中活動支援部会近畿地区代表委員

社会福祉法人明桜会 明石市立木の根学園 統括施設長 宮崎 泰生 氏

事例報告① 「姉弟の絆と故郷への想い」

発表者：社会福祉法人福角会 MORE サービス管理責任者 中平 華奈 氏（愛媛県）

事例報告② 「ぼくは、ここでずっと暮らします。」～ともに歩んだ40年で見えたもの～

発表者：社会福祉法人ひとは福祉会 ひとは工房 施設長 伊藤 千代子 氏

// 相談支援事業所もやい 相談支援専門員 矢口 詠依子 氏（広島県）

意見交換 コーディネーター：埼玉県発達障害福祉協会 理事社会福祉法人さくら草

理事長 山本 宏 氏

助言者：日中活動支援部会 近畿地区代表委員

社会福祉法人明桜会 明石市立木の根学園

統括施設長 宮崎 泰生 氏

登壇者：社会福祉法人福角会 MORE サービス管理責任者 中平 華奈 氏（愛媛県）

社会福祉法人ひとは福祉会 ひとは工房 施設長 伊藤 千代子 氏

// 相談支援事業所もやい 相談支援専門員 矢口 詠依子 氏（広島県）

第 3 分科会 小 ホ ー ル

「想いを支える」 ～映画「帆花」を通して考えるに学ぶ「想いを創る・図る・支える」こと～

多様な生きづらさのある重度重複障害者の「想い」を創り、図り、支えるために、私たちに必要なことは何か？

この分科会では、常時高度な医療やケアを必要としている方の、「本人らしい明日の姿」を模索し、その想いに寄り添っている家族や、その現実を通してつながってきた人たちの「気持ちや願い」に触れます。この「想い」を創る・図る・支えることで新しい価値観が生まれ広がっていきます。

「社会につながる」、「自分らしく生きる」、「豊かに生きる」ことについてあらためて深く意識し、日中活動を支える事業所で、「できること・大切にすること」を考える機会にします。

内 容

映画上映 『帆花（ほのか）』 2021年劇場公開

～我が子の成長を喜び、愛しむ両親の姿とその日々の営みを見つめ、いのちにふれるドキュメンタリー～

映画紹介 生後すぐに「脳死に近い状態」と宣告された帆花さん。母親の理佐さん、父親の秀勝さんと過ごす家族の時間にカメラは寄り添う。常に見守りが必要な帆花さんとの生活は誰にでもできることではない。でも、理佐さんと秀勝さんの2人にとってはあたりまえで、普通のこと。いろんな場所に出かけていき、絵本を読み聞かせ、お風呂に入れ、吸引をする……ありふれた日常の中で積み重なり、育まれていくもの。動かなくても、言葉を発しなくても、ふれあうことで通じあい、満ちていくもの。帆花さんを愛しむ両親の姿から伝わる、我が子と一緒にいられる幸せ……。

いま、この社会に私たちとともに在る「いのち」の物語。

鼎 談 テーマ「誰もが自分らしく生きる」～帆花との暮らしの中から想うこと～

登壇者：西村 帆花 氏、西村 理佐 氏、西村 秀勝 氏

国友 勇悟 氏（映画『帆花』監督）

※当日帆花氏は、体調等により登壇できない場合があります。

進 行：埼玉県発達障害福祉協会副会長

社会福祉法人みめま福祉会 総合施設長 松本 哲 氏

